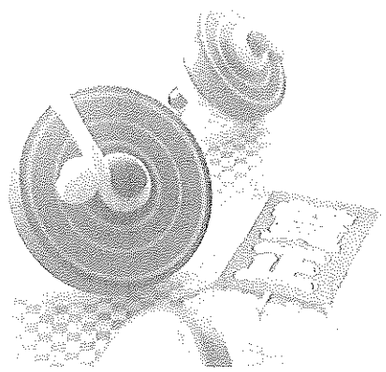
新しい年に向けて

政治転換の年に!!

参議院議員
江田五月



明けましておめでとうございます。皆様おそろいで素晴らしい申年の新年をお迎えのことと思います。日ごろのご支援とご協力に、心よりお礼を申し上げます。

直近の二回の総選挙を経て生まれた一強多弱の安倍政権は、いよいよ四年目に入りました。昨年九月の内閣改造に合わせて、安倍首相は「アベノミクスは第二ステージに移る」と宣言し、経済推進力として新「三本の矢」を発表しました。経済成長で二〇二〇年のGDPを六百兆円にする。子育て支援で合計特殊出生率を一・八に回復する。社会保障充実で介護離職をゼロにする。いずれも数字を明示して格好は良いのですが、果たして期待できるでしょうか。

鳴り物入りで始めたアベノミクス、「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「投資を喚起する成長戦略」の旧「三本の矢」は、日銀の協力を得た金融緩和こそ円安・株高で一定の成果を上げましたが、「円安が輸出増に」「企業業績拡大が設備投資増加に」「雇用増が消費増に」という期待された好循環は生まれず、トリクルダウンといわれた「しずく」は、中小企業の皆さんをはじめ庶民のところには届く当てはありません。その検証もないままに発表された新「三本の矢」は、いくら追いかけても消えてしまう蜃気楼と同じです。

経済成長も出生率増加も介護離職ゼロも、ボトムアップで庶民の懐を暖め、子どもを産み育てやすい地域を作り、心の通った社会保障を実現することで、はじめて達成の可能性が出て来るのです。若者の活力をアップさせ、特に若い女性の賃金水準を上げることが必要です。

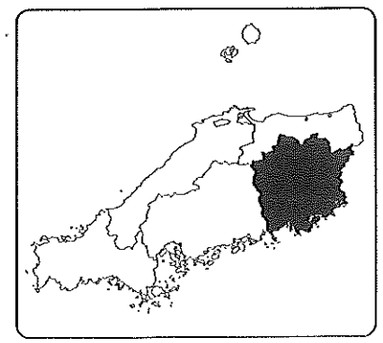
ところで、二〇一二年十一月十四日に当時の野田首相と安倍自民党総裁との党首討論で、「必ずやる」「嘘をつかない」「共に責任を持つ」と約束したことがあります。一つは衆議院解散で、もう一つが衆院の「一票の格差」是正と衆院定数削減です。十四年十二月の総選挙前に「〇増五減」は行いましたが、実質的に「一人別枠方式」を温存し、格差は最大二・一三倍でした。昨年十一月に最高裁大法廷は、衆院選小選挙区を三回連続して「違憲状態」としました。選挙無効こそ避けましたが、十四人の裁判官のうち九人の多数意見で、一人が「違憲」宣言を求め、二人が選挙無効を主張しました。相変わらずの弥縫策ではもはや通用しないと、最高裁から最後通牒を突き付けられています。

参議院も埒外ではありません。今夏の参院選は中四国の四県を二つの「合区」として行いますが、今後「合区」は確実に進んでいく趨勢です。何と自民党内には憲法改正で合区を回避する動きがありますが、全く逆立ちした議論です。参議院の役割を見直して二院制改革をすることは大切な憲法課題ですが、それと一票等価の憲法原則の遵守とは別のことで、本末転倒というべきです。安倍首相は安保法制や憲法改など自分の得意分野には熱心ですが、野田首相（当時）と国民の前で約束した「身を切る覚悟」などどこ吹く風のようです。

年末の自民・公明の軽減税率をめぐるドタバタは、朝ドラの「びっくりぽん」そのものでした。官邸の「鶴の一声」で、対象品目は公明党要求のとおり、酒と外食を除く食品全般の一兆円規模になり、財源の具体的議論は十六年度末まで先送りされました。その上、税収減のうち四千億円は、低所得者世帯の医療などの自己負担総額に上限を設ける「総合合算制度」の見送りで穴埋めするという事です。これは「一体改革」の三党合意に背き、社会保障充実も財政再建も置き去りです。当時の責任者だった谷垣さんが苦渋の表情をしていたのが印象的でした。選挙目当ての大盤振る舞いであるなら、「責任与党」とは言えません。

民主党は今、野党に転落した後、支持率低迷で雌伏の時期を迎えています。しかし、労働法制改悪や福祉予算削減による庶民いじめを進め、安保法制強行や臨時国会の召集拒否など憲法無視を行う政治が続いており、今夏の参議院選挙の取り組みは、政治転換のため極めて重要だと覚悟しています。民主党の最高顧問と憲法調査会会長として、しっかりと皆さんの声に耳を傾けてまいります。また（公財）日中友好会館の会長として、やっと薄明りが見えてきた日中関係の未来のために、日中間の青少年交流の推進などの事業に努力していきます。

中国税理士政治連盟のますますのご発展と皆さまのご活躍をお祈りし、また一層のご支援をお願いして、新年のご挨拶といたします。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



岡山県